

平成25年7月12日

保護者各位

登校日の水筒持参について (ホームページにも掲載しています。)

立川市立第十小学校
校長 泉 直樹

1 学校の飲料水を飲むことを原則とします。

★ 本校の飲料用の水は、高置水槽にためたものを利用しているのではなく、一般の水道本管から直接引かれています。日々水質検査も実施し、安全確認をしています。

2 子供の登下校の距離や天候等で子供の健康が心配とされる保護者の方は、保護者の責任において、水筒を持参させてください。

前年度と同様な対応ですが、以下の点をご理解いただき、ご配慮ください。

- ① 中身は、原則水とし、飲むのは登下校の時とします。
- ② 登下校中に振り回して他の児童に危害を及ぼさない。
- ③ 衛生面には十分配慮願います。
- ④ 学校内外で忘れ物とならないようにお願いします。
- ⑤ 期間は原則7～9月ですが、保護者の方の良識にお任せします。

3 水筒水の雑菌についてお知らせします(東京都の学校保健 第129号 H23.6.1 発行 を引用)

東京都学校薬剤師会 副会長 石川哲也

学校の飲料水は、「学校環境衛生基準」に即して定期検査及び毎授業日には、遊離残留塩素濃度、外観、味の点検が義務付けられている。

しかし、近年児童生徒は、学校に水筒を持参し飲用している例がある。特に昨年の夏の猛暑期には、熱中症対策として、水筒持参を奨励した学校もあった。水筒水は衛生的で安全だろうか。

児童生徒は、水筒に直接口をつけて飲用したり、季節によっては高温の教室に長時間置くことなどから、使用中の汚染や細菌の増殖可能性が考えられる。さらには、水筒を仲間で共用して引用する可能性もあることから、他の人にも影響を及ぼす恐れがある。そこで著者らは、児童生徒が学校に持参した水筒の細菌汚染調査及び汚染原因究明を行った。

水筒水中の一般細菌については、水筒水 143 検体中検出されなかったのは1検体のみで 100 個以下(飲料水の基準適合)は 11 検体(7.7%)であり、1 万個以上の物は 85 検体(59.4%)であった。一般細菌数が 10 万個を超えるものも数多くあった。

大腸菌群については 143 検体中 37 検体(25.9%)しか「検出されない」という飲料水の基準に適合していなかった。ただし、大腸菌は検出されなかった。

ストローで吸い出す方式のものは、ストローの内側が、カビで真っ黒になっていたものもあった。細菌の経時変化をみると、水筒中の一般細菌数は3時間後ではわずかに増殖するものの、ほとんどの変化は認められなかった。また、24 時間後では、5 倍程度に増殖した。水筒を水でゆすぐ程度で使用した場合、1週間で細菌は、基準値以上に増加した。

このように、水筒は多くが細菌に汚染されていた。その原因は、洗浄不足による水筒そのものの汚染の蓄積と判明した。

そこで、水筒を持ってくるにあたり、水筒は、入念な洗浄を行うことが大切である。また、学校の水は、学校環境衛生基準に即して管理されているので飲用は問題ない。